

未来への翼

2026
Winter

令和7年度八戸工業大学課外活動表彰伝達式



表紙

令和7年度八戸工業大学課外活動表彰伝達式を行いました

2月13日(金)、グランドサンピア八戸にて表彰伝達式を行いました。今年度の課外活動において顕著な活躍をした団体・個人が表彰され、参加した教職員らがその健闘を称えました。(写真:アイススケート部(ホッケー部門))

H.I.T.活動報告

学長通信





大学ホームページでご覧いただける記事もあります。
ぜひチェックしてください！

地域と連携した学生の取り組み

八戸市立市民病院との共同プロジェクトが進行中

本学は、八戸市立市民病院における救急患者の迅速な受け入れを目的に、同病院と連携のもとユニバーサルデザインによる共同研究を行っています。病院敷地内の横断歩道が救急車の導線に与える影響について調査した結果、患者搬入に支障が生じるケースがあることが分かりました。学生はグループごとに改善案を検討し、関係者にプレゼンを実施。市民病院には、今後の参考としていただく予定です。



本プロジェクトには、工学部工学科（機械工学コース 自動車工学プログラム、建築・土木工学コース）、感性デザイン学部の学生が参加しています！



「八戸市中心市街地のまちづくりに関する課題解決」提案

本学は、八戸市およびまちづくり八戸と連携し、八戸市中心市街地の種々の課題解決に向けた実践的な取り組みを行う授業を実施しています。今年度も、建築・土木工学コース3年生がより良いまちについて検討中。空き店舗の活用など、賑わい創出に向けた提案をプレゼンしました。3月には、市長にも報告する予定です。



「第5回英語プレゼンテーションセミナー」開催



1月23日（金）にセミナーを開催し、講師に一般財団法人英語教育協議会（ELEC）のAndrew Lynch氏をお招きしました。英語プレゼンテーションに関する講演・レクチャーに続いて、5名の大学院生が英語で自身の研究内容を紹介。本セミナーへは、本学関係者の他、県内の高校等から数名の先生方にご参加いただきました。参加者の方々からは「質の高いセミナーだった」、「学生さんたちが自分の研究を英語でプレゼンしている姿がとても素晴らしかった」などのコメントが寄せられました。



2025年度「学生チャレンジプロジェクト事業」成果報告会開催



本学では、学生が主体となって取り組む企画、調査・研究、地域貢献、ボランティア活動などを助成金により支援する「学生チャレンジプロジェクト事業」を実施しています。今年度採択された4件について、2月25日（水）に成果報告会を行いました。各プロジェクトの取り組みテーマは以下の通りです。

- ・HITキャンパス環境美化プロジェクト
- ・海に触れて、未来へ繋ごう！
- ・八戸工業大学モータースポーツ参戦・PR計画
- ・HIT BBS



三部会新役員が学長を訪問



学内行事や課外活動の取りまとめである三部会（学友会・体育会・文化会）の新役員が決定しました。役員の子生たちは揃って船崎学長のもとを訪れ、今後の抱負をお話しました。新委員長の大橋さん（感性デザイン学部2年）が就任挨拶と新体制を紹介。学長からは、学生の充実したキャンパスライフに向けた活動への期待が寄せられました。

イベント開催報告

『八戸工業大学 出張体験フェス2025』

12月13日(土)・14日(日)、イオンモール下田にてイベントを開催しました。エコカーやアプリ・ゲームの体験展示、ものづくりワークショップなどを行い、多くの方々にお越しいただきました。先進的な技術や、専門的な知識など、子どもから大人まで楽しんでいただけようです。本学の魅力を知っていただく機会となりました。



『防災科学フォーラム2026』

1月24日(土)、番町サテライトキャンパスにて『防災科学フォーラム2026』を開催しました。今回は、中高生や大学生が「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」、研究活動などで取り組んでいる成果を発表する場としました。当日は、青森大学、工大二高附属中学校、種市高校、本学の生徒、学生が参加し、それぞれのフィールドワークや研修、研究の結果をプレゼン。また、基調講演として東北大学災害科学国際研究所 助教の野村怜佳先生にお話をいただきました。



スポーツ情報科学研究センター主催講演会



12月19日(金)、ヴァンラーレ八戸 フィジカルコーチの成田拓哉さんをお迎えし、講演会を開催しました。テーマは『J2昇格の原動力! ヴァンラーレ八戸が実践するコンディショニング戦略とGPSデバイスの活用事例』で、学生、教職員、高校生が聴講。J2昇格を果たした裏側にあるトレーニングや、それにまつわるICTの活用などをお話いただきました。

サッカー場整備



現在、大学正門近くのサッカー場の改修工事が進んでいます。新たに人工芝を敷設するほか、照明器具なども新設します。これにより、大学はもちろん、グループ校の工大一高・工大二高においても競技がより盛り上がる事が期待されます。サッカー場は、今春3月完成に予定です。

←完成イメージ

オープンキャンパス開催予定



3月14日(土)、今年度最後のオープンキャンパスを開催します。本学の教育・研究・キャンパスライフを知ることができる、絶好のチャンスです! この機会にぜひお越しください。当日のスケジュールなど、詳細は本学ホームページをご確認ください。





北国の冬は雪抜きで語ることはできません。

私は新潟県上越市の生まれですが、上越市の高田地区（旧高田市）は、海岸から10km程度しか離れていないにも拘わらず、「北越雪譜（江戸後期に鈴木牧之によって著された書籍）」の中でも積雪が一丈（約3m）を超える程であったと記されているくらいの豪雪地帯です。



八戸工業大学の冬景色

青森県は新潟県以上に豪雪地帯であり（青森市は世界一の豪雪都市と評されています）、ニュースでもしばしば取り上げられています（酸ヶ湯温泉はあまりにも有名ですね）。八戸市は太平洋側の面しているため、弘前市や青森市など津軽地方の都市と比べ積雪は圧倒的に少なく、除雪作業は比較的楽なようですが、それでも除雪は冬の関心事の一つであることには変わりないようです。除雪作業の大変さは経験した者でなければ分からないと思いますが、春になれば消えてなくなるもののために払う労力の空しさはなんとも言えないものです。

そのような冬にも色々な楽しみがあります。子供の頃私が好きだったのは「凍み渡り」です。雪の表面が昼間の日光で融け、夜間の放射冷却でしっかりと凍り付くことによって表面が氷の様に固くなり、その上を自由に歩けるようになることを指します。田圃のように普段歩けないところを自由に往来できるので、小学校への登校路をショートカットするなど、友人達とその自由さを満喫したものでした。

比較的雪の少ない八戸における冬の楽しみの一つは、スケートではないでしょうか。「氷都」を標榜する八戸ではスケートが盛んです。実際、第80回国民スポーツ大会（青の煌めき国スポ・障スポ）の冬季大会のスケート競技会、アイスホッケー競技会が八戸市、三沢市で開催されたほどです。なお、本学にもアイスホッケー部があり、インカレの常連校として有名です。



国スポのスケート競技会と閉会式が行われたYSアリーナ八戸



八戸市庁舎前の広場での一コマ

そして、八戸での冬の最大のイベントは、なんと言っても「えんぶり」です。2月17日～20日の間、その年の豊作を祈願するお祭りが八戸市中心街で執り行われます。えんぶりは、杓（えぶり）という、田植え前の田圃の表面を平らに均す道具を模した棒を用いて、太夫という大人達が馬の鬣（たてがみ）を模した烏帽子を被り地面を摺るような動作を行うのが代名詞ともなっています。太夫の舞は勇壮で躍動感があり、馬が固くしまった田圃の土を力強く掘り起こす様を彷彿させます。「やませ」というオホーツクからの冷たい風で作物の成長が阻害されることに苦しんできた南部地方の人々の切なる願いや祈りを表現するもの、と見る事ができるでしょう。夏の三社大祭もそうですが、このような祭りを大切にしてきた八戸の人々の地域への深い愛情と世代を超えた連帯に深い感銘を覚えるとともに、八戸の魅力が改めて感じます。

日本は四季のある国から二季の国になった、という言葉も聞かれるようになりましたが、八戸ではまだまだ四季をしっかりと感じる事ができます。それぞれの季節毎に町は彩りを変え、その度海の幸、山の幸を味わうこともできます。季刊版として昨年の春からスタートしたこの「学長通信」も、季節の香りを伝え切れたかは別にして、まずは無事一巡目を終えることができそうです。ご愛読？ありがとうございます。4月には多くの新生がキャンパスにやってきます。学長通信も二巡目を迎えることになるでしょう。この繰り返しが実はとても尊いものであるということを噛みしめる今日この頃です。

編集後記

今年度から始めた本広報誌は、当初の予定通り今回で年度4回の発行をすることができました。これも、学生と教職員による豊富な取り組みあつてのことだと思えます。日頃、取材や撮影、情報提供を快く受け入れてくださり感謝申し上げます。次年度はより充実した内容で、パワーアップした『未来への翼』が多くの方に届くことを願っています。お読みいただいている皆さま、ありがとうございます！引き続きよろしくお願ひします。（大学・入試広報チーム）



学長通信の全文はHPにて！

＼HP・SNSでも情報発信中！／



工学部 工学科
感性デザイン学部 感性デザイン学科
大学院 工学研究科